

全学が一堂に
演奏と歌声で百二十五周年を記念

「東北学院フェスティバル」を楽しむ

十一月五日（土）、泉キャンパス礼拝堂は本学の園児、生徒、学生たちによる演奏と合唱の豊かな音色に包まれた。幼稚園、中高大の一体感にあふれたフェスティバルは、最後まで来場者を魅了した。

フェスティバルは、幼稚園年長児六十五人の元気な歌声からスタートした。初めての大きな舞台にみんな緊張しながら登場。何度も練習した成果に会場からは大きな拍手が送られた。

第一部は三校それぞれによる演奏が披露された。

伝統ある大学のSWA（シンフォニック・アンド・アンサンブル）は人気ドラマの主題歌を交えた三曲を演奏。続いて、今年度全日本マーチングコンテスト東北大会で銀賞を受賞した中学・高校吹奏楽部が個性的で爽やかな演奏を聞かせた。榴ヶ岡高校の音楽部と吹奏楽部は、思いを込めたハーモニーと軽快な吹奏楽演奏の二部構成で聴衆の心をつかんだ。

第二部は、中学生から大学生までの吹奏楽部員、合唱部員、聖歌隊の総勢百二十人に、小野なおみ氏のパイプオルガンの独奏が加わるという、本学ならではの構成によるステージが繰り広げられた。

フィナーレの曲は東日本大震災の応援歌「あすという日に」。鳴り止まない拍手に応えたアンコールでは、百二十五周年を記念してあらたに編曲された「校歌」が礼拝堂に響いた。

中高大連携による初の演奏会の合同練習は、震災の影響もあって前日も含めて三回。この日を無事に終えて部員たちは、「貴重な経験だった」「大学生と一緒にまたぜひ演奏したい」と感想を述べた。